

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は緩やかに回復している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

前回調査からの主要変更点

	前回（平成 18 年 11 月）	今回（平成 19 年 2 月）	
住宅建設	大幅に増加	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

一般機械は、半導体製造装置が、国内外の半導体メーカーのおう盛な設備投資需要を受け、好調だったことや、土木建設機械が世界的な資源開発の活発化などを背景に好調だったことから、高水準で推移している。電子部品・デバイス、半導体素子・集積回路が薄型テレビなどのデジタル家電や、携帯電話向けに好調だったことから堅調に推移している。化学は、医薬品がOEM（相手先商標生産）の受注や後発医薬品の生産増などに伴い堅調に推移していることなどから、高水準で推移している。繊維は、衣料品は安価な中国製品等との競合により、振るわなかったものの、非衣料品が自動車内装材向けに堅調に推移したことからおおむね横ばいとなっている。金属製品は、住宅向けは弱含んでいるものの、ビル用が主にマンション向けに伸びていることから、おおむね横ばいとなっている。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成18年12月の北陸は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

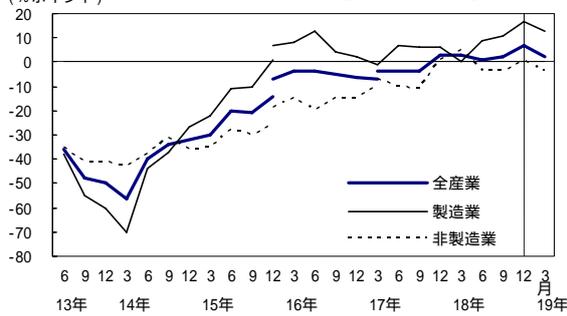
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
一般機械	14.8	4.2	6.2	-	-
電器品・デバイス	13.8	4.7	0.8	-	-
化学	12.7	2.5	0.5	-	-
繊維	12.4	0.6	0.8	-	-
金属製品	10.6	4.6	0.2	-	-
鉱工業	100.0	2.4	0.1	-	-

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 10~12月期は速報値。
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が拡大し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

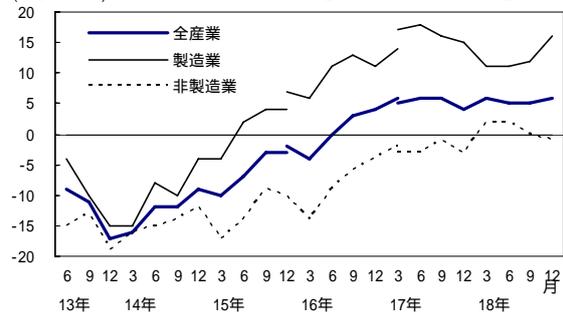
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



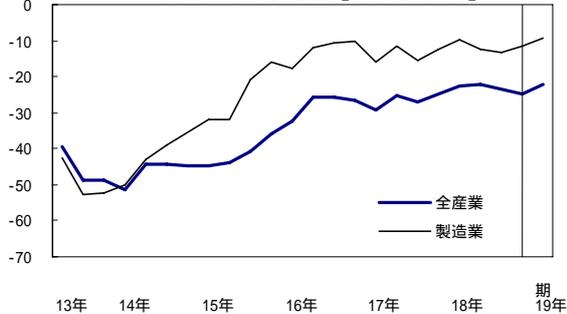
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年3月は予測。
15年12月および17年3月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および17年3月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

「暖冬で雪の無い正月を迎え、飲食関係は良かったようだが、冬物衣料や冬の生活用品、灯油、スキー場など、苦戦している中小事業者が多い(会計事務所)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

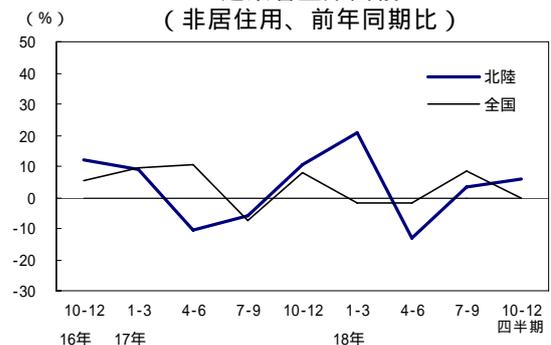
(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度画
全産業	8.1	21.6 (5.6)
製造業	5.9	31.0 (7.2)
非製造業	12.6	3.9 (2.0)

(備考) ()は前回(9月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに回復している

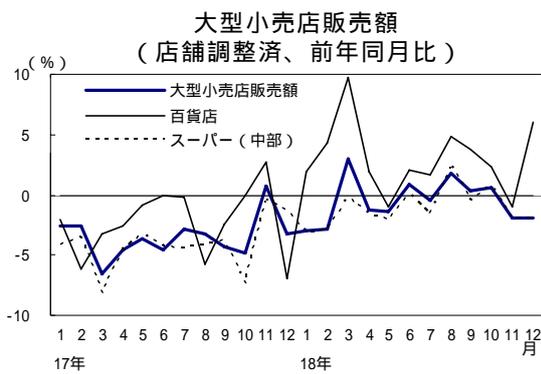
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、週末の天候に恵まれ、秋物衣料やブーツなどの季節商材に動きがみられたことや、飲食料品が伸びたことなどから、前年を上回った。11月は、気温が高めに推移し、冬物衣料品が伸び悩んだことに加え、大型商業施設が開業した影響などもあって、前年を下回った。12月は、前年の大雪・寒波による消費の落ち込みの反動や、各種催事効果などにより、衣料品、食料品などが伸びたことから、前年を上回った。

スーパーは、飲食料品が10月以降2か月連続で前年を上回ったものの、衣料品が振るわなかったため、全体でも前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「天候にも恵まれ、来客数は前年比104%、売上は同102%と順調であった。ただ、期待した行楽需要は主力のおにぎり、弁当、パンなどの中食が同96%と苦戦した。アルコールやたばこは正月需要で好調だった。総じて客の購買に力強さが感じられない(コンビニ)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



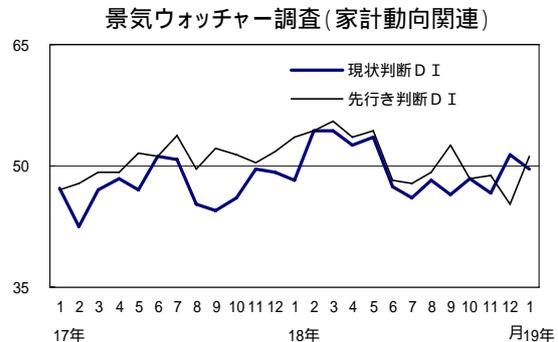
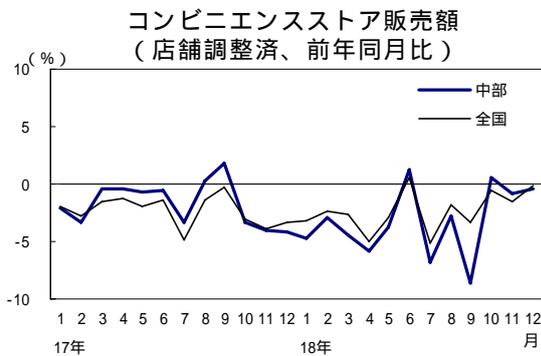
	(前年同期比、%)			
	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	1.1	0.6	0.5	1.2
百貨店	5.4	0.9	3.2	2.7
スーパー	2.2	1.2	0.1	1.1
コンビニ	4.0	2.8	6.1	0.2
景気ウォッチャー	52.3	51.2	46.9	48.9

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店は日本銀行金沢支店調べ。

スーパー、コンビニは中部地区。

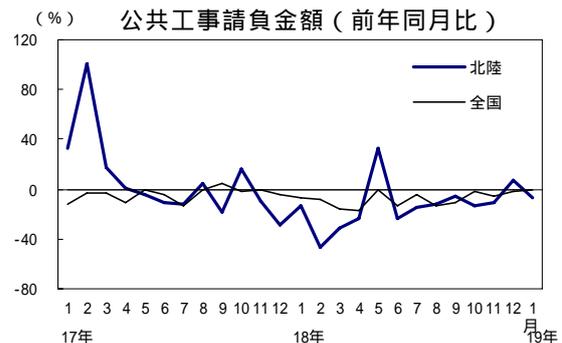
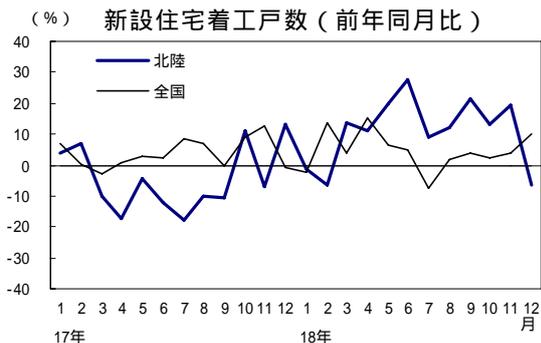
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、分譲が前年を上回ったことから、全体でも増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

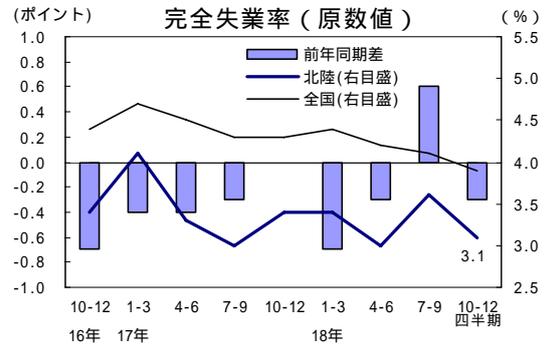
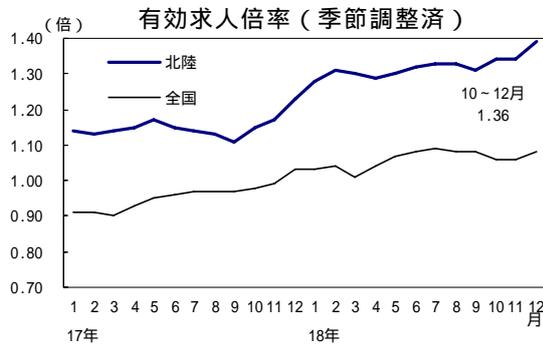


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

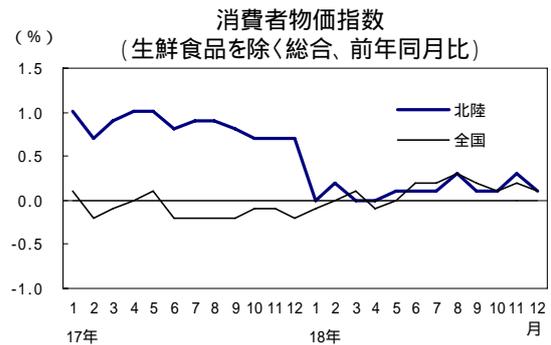
「新規求人数は前年に比べ2けたの増加となっているが、全体に占める正社員の割合は4割弱にとどまり、雇用形態のミスマッチが続いている（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	19年1月
倒産件数	74	105	73	74	22
（前年比）	4.2	101.9	1.4	3.9	0.0
負債総額	206	264	182	315	69
（前年比）	46.6	108.7	11.3	106.6	19.2



景気ウォッチャー調査（1月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・雪の影響が無く、好調であった。特に2日、3日は好天にも恵まれ、過去最高の売上を記録した。来客数は前年比115%で推移した（高級レストラン）。

<先行き>

・おう盛な受注残による超繁忙はここ3、4か月は続く。今年の上半期は前年以上の受注が確保できる（一般機械器具製造業）。

景気ウォッチャー調査（合計）

